

事例 2

情報の共有化と“魅せる”現場の 意識がルールを守る人材をつくる

経営トップ自らによる徹底した情報発信と、本音の安全管理活動によって、全員が決められたことを守る職場を醸成。“魅せる”現場を意識した独自の取組みが、整頓された働きやすい建設作業所につながっている。

寿建設株式会社・福島県

基本方針——ブランド戦略として安全レベルを向上

寿建設株式会社は長年、トンネル・シールド工事施工で専門技術を生かしてきたが、近年は一般工事やトンネル補修工事にも進出している。

同社では、企業として地域や顧客から選ばれるよう、「寿ブランド」の確立を進めているが、安全もブランドの1つと考えており、安全水準のレベルアップを図っている。

“積極的”というキーワードを掲げた2012年度の安全衛生環境管理計画では、震災復興による工事量の増加に伴い、未熟練作業員が増えたり、忙しさで安全管理が軽視されがちになることを懸念し、以下の基本方針を掲げた。

- 積極的な予防の安全管理の取組みとして、施工検討会・作業手順周知会・危険予知活動のリスクアセスメント時の活発な意見交換を行う
- 積極的な教育・指導の強化として、作業員・協力会社の送り出し教育資料作成配布と安全教育を実施し、未熟練作業員を含め全従業員の安全レベル向上を図る
- 積極的な健康改善の取組みとして、保健組合保健師によるメタボ健康指導の実施、健康メルマガの発信と活用を行う

作業所の安全掲示板



安全掲示板には「動」「重」「高」「変」の4項目の危険要因に関する注意喚起活動の掲示物を、各作業所独自に作成。イラストは自社キャラクターの「こまめ君」



会社独自基準の「歯止め・タイヤ切り」の完全実施



作業所ごとの社会福祉活動
入口カウンターに、古切手、ペットボトルキャップの回収箱を設置



管理体制——経営者自らが全社員に週1回メール

統括安全衛生管理者は副社長で、毎月の安全衛生環境委員会には、各部長のほか、当日本社にいる社員が参加する。全社員と協力会社が出席する安全大会を、年3回実施。部長職以上の幹部が毎月交代で全作業所をパトロールし、社長も年に3回、夜勤工事を含むすべての作業所をパトロールする。1作業所に3時間かけ、すべての従業員にひと声かけるように心がけ、必ず全員を集めた安全集會も開催する。

これ以外にも、社長自らが、毎週月曜日、全社員にメール「積極的通信」を配信。建設業では社員の勤務場所が本社から離れているため、情報をつかみにくい面がある。作業所にいるだけでは分かりにくい災害状況や建設業全体の情報と、それに基づいて自社で取り組むべき事項などを、メール配信により共有化している(図表1)。幹部パトロールの点検結果とその是正報告、社内外の災害事例とその再発防止策なども写真やイラストを使って見やすくしたうえで、配布している。

メール活用では他にも、安全衛生委員会が月1~2回、健康や生活習慣に関するメルマガを配信する。

教育・講習——ミスをする前提で注意作業を絞込み

安全管理では、「動くもの」「重いもの」「高い場所」「変化する時」の4項目で危険有害要因を洗い出し、対策を立てる注意喚起活動を実施している。自社で起こった災害を分析した結果、大きな災害に共通するのが前記の4項目だった。1日中集中して作業することは困難なことであり、少なくとも「動くもの」の近くで作業するとき、「高い場所」で作業するとき、「重いもの」を取扱うとき、何らかの理由で「変化する事象が発生した時」には、ひと呼吸置くとともに、「危険な作業をしようとしているんだ」という警戒心を持ち、小さなことでも必ず対策をしようという取組みである。

作業員・協力会社の送り出し教育では、人間はミスや不安全行動をするものという前提に立ち、「自分のからだは自分で守る 仲間のからだはみんなを守る」、「災害が起きてからは是正するのでは遅い」といった点を強調（図表2）。前記4項目関連作業時のリスク軽減対策、安全施工サイクル（図表3）を指導している。安全施工サイクルでは、「KNミーティング」と称する、作業終了後の話し合いを設けているのが特徴だ。当日の反省やヒヤリ報告、申送りをする時間だが、職長と作業員が気軽に話し合える機会をつくるという目的もある。

CSR——地域との良好な関係が安全につながる

組織名や年間計画にあるとおり、同社では環境活動にも力を入れている。現在施工中の元請トンネル工事では、“魅せる”現場の実例として、作業所内の徹底した整理整頓、美化運動のほか、工事予告看板を一般市民に見やすく工夫し、毎日表示面をきれいに清掃した。これが通行車両や地域住民から喜ばれ、学校等から毎月必ず、何件かの工事現場見学の申込みがあるほどである。地元と良好な関係の作業所は、従業員が働きやすく、安全にもつながるといえる。このほか、すべての作業所単位で周辺のゴミ拾いや地域活動への参加などを実施する「1現場1奉仕」という取組みも行われている。

作業所ごとに古切手、ペットボトルキャップの回収などの社会福祉活動にも実施している。環境活動への反応があったり、目に見えるかたちの社会福祉活動を行っているためか、従業員一人ひとりが前向きで、とても明るい。情報共有化が徹底され、作業所に一体感があり、車輛等の逸脱防止策「歯止め・タイヤ切り」の実施といった同社独自の安全基準が、完全実施されている。

図表1 経営トップによるメール「積極的通信」の例

(文章例)

■7月22日付

毎日の仕事、お疲れ様です。あつという間7月後半です。猛暑と思ったらここ数日は寒いです。体調管理が難しいと思いますが、どうか自分と仲間の健康・身体第一をお願いします。熱中症の初期症状で病院に行ったという報告が何件入りました。どんなに気をつけてもどんなに水分を補給しても、調子が悪くなって仕方がない暑さもあります。早めの休憩、早めの対応で、大事に至らないようにして下さい。社員のみなさんは特に全体に気配りをお願いします。

20日の午後二本松市の東北自動車舗装工事の現場で重傷事故が発生した、という新聞記事がありました。車両誘導をしていた警備員さんが後退して来たトラックに衝突したという事故です。警備員さんは腰の骨を折って重傷ということです。そこまで分かりません。

重機車両がバック中に現場で働いている他の方と撞いてしまう事故、福島県内だけでこの数年何度あったことでしょうか。人がいることが分かればつづける事故はありません。合図・確認不足や思い込みという、誰にでもあるちょっとしたヒューマンエラーが事故を招きます。現場で「動く・重いもの」である重機車両と一般作業の方との関係状況を再度見て、安易に近づいたり合図や誘導もなく動かす状態にあるようでしたら、速やかに改善して下さい。災害が起きてやること先にやろう、です。



一現場一奉仕活動実施状況
(東北新幹線近くの清掃活動)

図表2 作業員・協力会社の送り出し教育資料(抜粋)

寿建設の作業所で働く皆様へ

初めに
安全と命
「安全とは」仕事中に怪我もしない、怪死させないということです。その基本は「やるべきことをきちんとやる、やってはいけないことはやらぬ」ということです。
そして「自分のからだは自分で守る」「仲間のからはみんなでも守る」という強い気持ちで作業をすることです。

当社の安全行動の原点は「ごまめ」
「ごまめ」とは、「すぐにやる・きちんとやる」です。

安全ルールを守る
現場で安全に作業を行うためには、新入社員教育・作業手引書・現場安全には自分の安全を重視する下さい。

寿建設の安全キーワード
「動くもの」「高い場所」「重いもの」が変化するときには警戒心を持たせよう。現場では様々な事故・災害の発生がもたらします。過去の災害事例等を分析して見れば、大きな原因に共通している共通テーマとして、「動くもの」「高い場所」「重いもの」が変化するときです。
皆さんが作業を継続する中で、一旦作業を止めて作業を継続することは不可能なことです。「動くもの」の近くで作業をする時、「動く場所」で作業を行う時、「重い物」を取り扱う時、何らかの理由で変化が生じる事象が発生した時には、一時停止して作業にあたることを、「自分たちは高品質な作業をしようとしてもんだい」という決意を持って作業を行って下さい。

現場では「動く」「高い」「重い」が変化しなくては作業を再開することができません。この特定された作業時は警戒しましょう。
また、「今の設備で大丈夫なのか?」「この作業方法は安全なのか?」というように考える習慣を身に付けて下さい。

寿建設の安全ローガン
「自分のからだは自分で守る。自分自身の安全は自分自身で守る。自分が行う作業にはどんな保護具が正しいか?常に考えながら作業をせよ。そして人間はミスをする生き物ではない。この心持は危険を回避して自分自身を守ります。」
このローガンを常に心に掛けて下さい。

「災害が起きてからでは遅いので、事前に災害が発生するかどうかを事前に予測し、対策を講じておくことが重要です。一人一人が考え、行動することは、自分自身の安全を守ることです。災害発生時には、必ずしも自分自身を守るだけでなく、周囲の安全も確保することが重要です。自分達の仲間が犠牲になる前に」

寿建設 作業所 動くもの
寿建設 作業所 高い場所
寿建設 作業所 重いもの
寿建設 作業所 変化する時に災害発生

「動くもの」「高い場所」「重いもの」が変化するときへの注意喚起ポスター

図表3 安全施工サイクル

